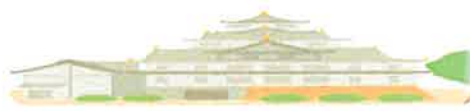


21・老福連
第12回職員研究交流集会
ニュース



ららじゅ

《速報第2号》

発行 21老福連第12回職員研究交流集会
実行委員会広報担当
住所 岡山市東区西大寺浜261
電話 086-944-2266

原発・放射線被害
シンポジウム

脱原発いまずぐできる

放射線被害の実態／被災者の現状／被災地からの子ども
受け入れの活動



藤原秀文さんの講演

放射線がもたらす健康被害
まずシンポジウムの基調的講演として、藤原秀文さん（生協内科クリニック・医師）から、自身の広島被爆の経験を交

原発や放射線被害の実態について、まもなく被災地から報告がとれました。



佐藤和子さん（特養はなしのび施設長・福島）



被災後の福島原発

えて報告があり、被爆後、も体内に残る低量放射

線がもたらす健康被害を、や原発の仕組みについて話されました。
シンポジウムのひと

大塚愛さん（子ども未来・愛ネットワーク代表）



り、佐藤和子さん（特養はなしのび施設長・福島）からは、被災後も人々が喪失感や無力感に苦しんでいる実態を紹介。また、大塚愛さん（子ども未来・愛ネットワーク代表）は、岡山の有志が被災地の子どもを放射線能から守ることを進めている活動を報告しました。

原発と放射線
シンポジウム

もう二度と繰り返さない



参加者のみなさん

シンポジウムを聞いて、参加者からは「福島原発事故を一度と繰り返してはいけない」と

「原発ってどうなの…」

シンポジウムに聞き
入る参加者

『ま返しとミ』届てよい



「これからも被災地支援をがんばります」と阪井貴久さん。

これからがんばる

「花プロジェクト岡山」の阪井貴久さん

シンポジウムでは、東日本の震災後、被災地支援を行う「花プロジェクト岡山」の阪井貴久さん（同代表）からも報告がありました。被災地を訪問し、「自分たちがなにかできるか」を真剣



いった感想が出ました。また、特養はなしのび

（福置園）からの、被災者の困難を聞き、「被災

後も人々が苦しんでいる実態が報告された。これからは視野を広げていこうな」とお考えでした。と話す参加者もいました。



☆キラリさん☆②

吉尾 邦子さん(たくまの里：熊本 施設長) (右の方)

今日の基調報告では、私たちが日頃、現場で感じていることが報告者の方から聞くことができました。自分達のこととして、とても共感させられました。

「考えたというメンバーのみなさん。そして「少しでも支えになれば」と、第一回はイベントの種を被災地の幼稚園に運んだ活動を紹介しました。

その後も、計80回の花を被災地へ。そのために、地域や福祉施設での『まつり』などで財政活動がなはらっているプロジェクトのメンバーさん。いつまでも心にある『なにかしたい』という一人ひとりの思いで、これからも活動しつなげたい」と話してくれました。